

HBMS地域医療経営 プロジェクト研究センター

HBMS COMMONS FOR HEALTH POLICY AND MANAGEMENT STUDIES

研究センター開設記念HbpMSセミナー ⑤

ヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を考える

広島大学医学部医学科広仁会、広島商工会議所 後援

日時 2019年

3月3日

13:00~16:00

(16:10-17:00同所にて懇親会を予定)

場所

日本赤十字社
中四国ブロック
血液センター研修室

広島市中区千田町2丁目5番5号

募集

150名

スケジュール

13:00 開演	栗栖センター運営相談役
13:00 ~ 13:15	ご来賓挨拶
13:15 ~ 13:30	ご挨拶 「医療介護の経営人材養成について」 西田在賢センター長 (HBMS教授、ヘルスケアマネジメント分野担当)
13:30 ~ 14:15	講演1 「本格的高齢社会における医療介護等社会保障の制度運営の姿(仮)」 講師：迫井 正深 (厚生労働省大臣官房審議官、経済産業省商務・サービスグループ政策統括調整官兼任、内閣官房健康・医療戦略室次長) 座長：浅原 利正 (広島県病院事業管理者、元広島大学学長、元広島大学病院病院長)
14:15 ~ 14:30	休憩
14:30 ~ 16:00	講演2 「社会システム・デザイン論が説く日本の医療システムの改革と経営」 講師：横山 禎徳 (HBMS研究科長、東京大学EMP企画推進責任者、元マッキンゼー・アンド・カンパニー東京支社長) 座長：土肥 博雄 (日本赤十字社血液事業本部相談役、広島赤十字・原爆病院名誉院長、広島大学医学部医学科広仁会会長)
16:00 閉会と 懇親会案内	岡野MBA業務推進担当室長
16:10 ~ 17:00	懇親会(希望者のみ)

参加料

無料

懇親会費

2,000円 ※希望者のみ



HbpMSとは

HBMS+HPMS (Hiroshima Business and Management School + Health Policy and Management Studies)

医療経営学(Health Policy and Management)の視座から、国による社会保障の重要政策、医療介護総合確保推進に関する研究を行い、その成果をもって広島県をはじめとする全国における医療介護総合確保推進のための制度・政策や事業経営のマネジメントにあたる人材養成の実践につなげる。

お申し込み方法

申込締切：平成31年2月28日(木) 但し、定員になり次第締め切ります。HBMSのウェブサイトにてお申し込みください。

【お問い合わせ先】

公立大学法人 県立広島大学 MBA業務推進担当

TEL:082-251-9726 E-MAIL:mba-office@pu-hiroshima.ac.jp

広島県広島市南区宇品東1丁目1-71

<http://mba.pu-hiroshima.ac.jp/ja/>

HBMS MBA

検索



研究センター開設記念HbpMSセミナー ⑤

ヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を考える

広島大学医学部医学科広仁会、広島商工会議所 後援

本格的な人口減少と高齢化が進む日本は、ヘルスケアすなわち医療介護の総合確保推進のための経営人材の養成が急がれています。

さて、その「経営」なるものの捉え方ですが、かねてより私は「経営とは資源の遣り繰りのこと」と説明してまいりました。と申しますのも「経営」という漢字には金儲けの意味は元来なく、この用語を作り出した中国の約2500年前の書物『詩経』の中に載る詩に「経営」が現れ、そこでの意味は、土地を測量して建物を造営する一連の作業を指しました。そしてやがてもっと広く事業一般を営む意味に使われるようになりました。

なお、「経営」の英語managementにもやはり金儲けの意味はありません。日本では幕末から明治に入る頃に英語が修得され始めますが、当時のことですから漢学の素養がある人が訳されたので、翻訳が正しくなされています。なお、動詞のmanageが日常で使われるときは正に「遣り繰りする」が当て嵌まると、私は米国に住んでたびたび実感しました。ちなみに経営で遣り繰りする資源とは、ヒト・モノ・カネであり、昨今はこれに情報が加わっています。

さて、患者の診断は医師の役目です。その診断の実践の様子を観察しますと、当該患者に向けた医療資源の配分の決定であり、医療資源の遣り繰りです。ですから医療の経営なるものは、本来、医師が専らとするところのものです。ところが、日本ではいつ頃からか、「経営」は商人が専らとする金儲けのことだと解釈され、人の命を預かる医師が手を染めるものではないと思われるようになりました。私が大学院生だった1970年代後半頃でも「医は仁術であって算術ではない」と標語されていたのを憶えています。

ですが、80年代にコンピュータの普及が進み、90年代にインターネットが普及し始める頃には情報も経営資源だとの認識が深まり、また2000年に入ると非営利事業にも経営が必要だとの理解が日本人の間で高まるようになりました。

今あらためて医療でも限られた資源の遣り繰り、すなわち経営の考え方が必要であることを、医師をはじめとする医療界の方々にご理解していただくと共に、経済界の方々にはこれまで取り組んでこられた事業経営との接点にお気付きいただける機会を設けさせていただきたいと考えて参りましたところ、この広島の地で叶うこととなった次第です。

日本社会の今後を支える重要な課題であるヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を、是非この広島から発信していきたいものと考えます。

2019(平成31)年1月吉日

HBMS地域医療経営プロジェクト研究センター長 西田 在賢